

日耳鼻埼玉県地方部会
2025年頭頸部外科月間

口からガンが取れるってホント?!

知られざる頭頸部がん最前線

日耳鼻埼玉県地方部会
公式YouTubeチャンネルにて

2025年7月
動画公開!

二次元コードからも
アクセスできます。



http://www.youtube.com/@saitama_jibika

主催：日耳鼻埼玉県地方部会・埼玉県耳鼻咽喉科医会

◆ “頭頸部”って、体のどこのこと？

…わかりやすく言うと、

“脳と目を除いた首から上すべての領域”

を指します！

◆ どんな「がん」ができるの？

がんの種類	おもな症状
◆鼻・副鼻腔がん	●鼻血 ●鼻水 ●鼻づまり ●くさい鼻汁が出る ●顔の腫れ ●眼球が動かしづらい ●物が二重に見える
◆口腔がん	●口内炎のような症状が続く ●口の中にしこりがある ●口の中がしみる ●首のリンパ節のしこり、腫れ
◆喉頭がん	●声のかすれ ●飲み込みづらい ●息苦しい ●首のリンパ節のしこり、腫れ
◆唾液腺がん	●耳の前部や下部の腫れ ●舌のしびれ、痛み ●顔面神経の麻痺
咽頭がん	
◆上咽頭がん	●鼻血 ●鼻づまり ●眼球が動かしづらい
◆中咽頭がん	●のどがしみる ●のどが痛む ●飲み込む時の違和感 ●首のリンパ節のしこり、腫れ
◆下咽頭がん	●のどがしみる ●血痰が出る ●飲み込む時の違和感 ●声のかすれ ●耳の周りの痛み ●息苦しい ●首のリンパ節のしこり、腫れ
◆首の位置の食道がん	●食べ物がつかえる感じ ●熱い食べ物がしみる ●のどの違和感

出典：もっと知りたい頭頸部がんのこと（一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）を加工して作成

◆ どんな治療があるの？

…このあとのページで概要を説明しています。

詳細は 日耳鼻埼玉県地方部会 YouTube チャンネル をご覧ください！

講演①「はじめに」

今回はあまり知られていない頭頸部(とうけいぶ)がん、特に「のどのがん」の最新治療法をご紹介します。

◆ 頭頸部がんとは？

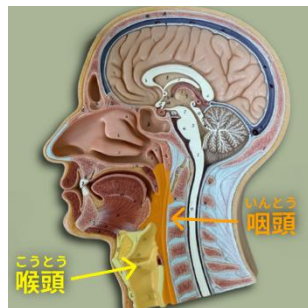
頭頸部とは、脳や目を除いた「首から上の部分」のことを指します。口、鼻、のどなどにできるがんをまとめて「頭頸部がん」と呼びます。

◆ のどの構造と働き

のどには食べ物の通り道である「咽頭」と、空気の通り道である「喉頭」があります。喉頭には声帯があり、これらは食べる、息をする、話すという大切な機能を担っています。

◆ のどにがんができれば

声のかすれ、飲み込みにくさ、のどのつかえ感などの症状が現れることがあります。早期発見・早期治療が重要です。



◆ 進化する治療法：口から手術ができる時代に

以前は皮膚を切開する手術が一般的でしたが、技術の進歩により、口から手術を行う「経口的手術」が可能になりました。

◎ 早期咽頭がん：ELPS(内視鏡的咽喉頭手術)

早期の咽頭がんなどに、内視鏡(胃カメラ)を使ってがんを切除する方法です。体への負担が少なく、声や飲み込みの機能を残しやすいのが特長です。

◎ 咽頭がん、喉頭がん：TOVS(内視鏡下経口的咽喉頭部分切除術)

少し進行したがんにも対応できる術式です。日本で開発された手術法で、特殊なカメラや手術器具を口から挿入し複数の器具を使って操作できる点が胃カメラによる ELPS と異なります。

◎ 扁桃がん(咽頭がん側壁)：TORS(経口的ロボット手術)

ロボットアームを使い、人間の手よりも細かく正確な手術が可能です。これまで難しかった部位のがんにも対応できます。

◆ 最後に

内視鏡やロボットを使った経口的手術により、食事や会話への影響を最小限に抑えた治療が可能になっています。ただし最適な治療法は、がんの状態などによって異なります。まずは専門医に相談することが大切です。各専門医による詳しい解説をぜひご覧ください。



大崎 政海(おおさき まさみ)

上尾中央総合病院耳鼻いんこう科・頭頸部外科 科長

日耳鼻埼玉県地方部会 常任理事

専門分野 頭頸部がん

主な資格 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医

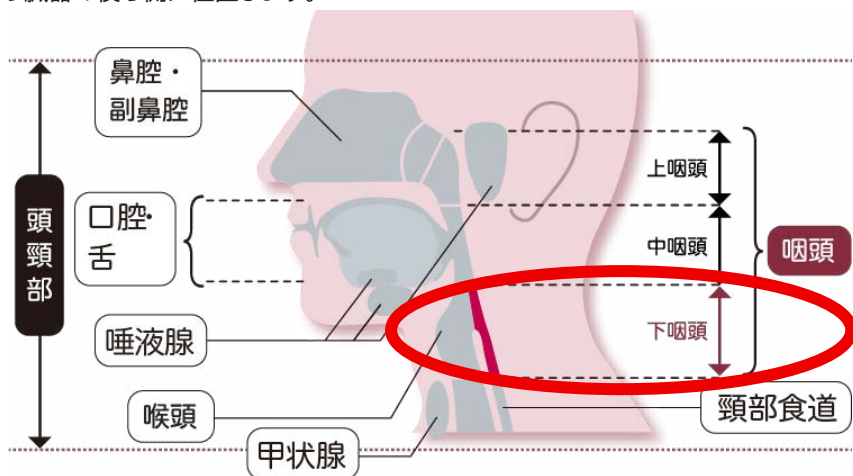
日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・指導医

日本形成外科学会専門医

講演②「早期下咽頭がんについて ELPS」

◆ 下咽頭とは

のどは頭側から上・中・下の 3 つの領域に分かれます。**下咽頭(かいんとう)**とは、のどの中でも一番尾側に位置する領域で、食道に入る手前で声を発生するための喉頭(こうとう)という臓器の後ろ側に位置します。



◆ 早期下咽頭がんとは

下咽頭は普段は前後の粘膜が合わさっているため内視鏡でも観察しづらい領域です。近年、内視鏡画像での画像構成技術や光学的技術が進歩し、がんになりかけている病変や早期がんを発見しやすくなりました。そのため以前は進行がんが発見されることが多かった下咽頭がんも極早期で見つかることが多くなりました。このような例は胃カメラを用いた検診などで発見されることも多くなっています。

◆ 早期がんに対する治療

早期がんが発見されることが多くなった最近では、口の中から器具を挿入し内視鏡画像をモニターに映した状態で、粘膜を含めた組織を注射によって浮かせて浮いた部分を薄くそぐような切除を行う治療が中心になっています。このように早期のうちに耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を受診すれば、臓器温存はもちろん術後 QOL の低下をきたさずに根治治療が可能となっています。のどの違和感を認めた場合は、放置せず早めに耳鼻咽喉科・頭頸部外科にかかるようにしましょう。



別府 武(べっぷ たけし)

埼玉県立がんセンター 副病院長

日耳鼻埼玉県地方部会 副部長

専門分野 頭頸部がん

主な資格 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医

日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・指導医

日本気管食道科学会専門医

講演③「喉頭下咽頭がんに対する「経口的機能温存手術」の最前線」

◆ 咽喉頭がん治療の問題点について

頭頸部の中でも下方に隣接する喉頭と下咽頭は、「空気の通り道(気道)」「食べ物 の通り道(食道)」の分岐点、という重要な役割を持つ。同時に喉頭には、声を出す際に中心的に働く「声帯」も存在する。これらの理由から、喉頭下咽頭がんの治療においては、「息をする(呼吸)」「声を出す(発声)」「食べ物を飲み込む(嚥下)」といった、ヒトとして生活するうえで必要不可欠な機能を、どれだけ良い状態に維持できるか、という点がとても重要な課題となる。

進行がんにおいては頸部外切開による拡大切除が基本となり、多くは「喉頭全摘術」を伴うため、発声機能は喪失する。抗がん剤と放射線を同時併用する「化学放射線療法」による治療が行われる場合、発声は温存されるものの、手術より治療成績に劣る、長期的な嚥下機能の悪化による誤嚥性肺炎などが問題となることが多い。

◆ 機能温存をめざした低侵襲な経口的手術治療について

防衛医科大学校では、「発声」や「嚥下」の機能を維持する、機能温存を重視した手術治療に積極的に取り組んできた。内視鏡を用いて口の中からがんを切除する経口的切除術(Transoral Videolaryngoscopic Surgery: TOVS)を独自に開発し、「声帯のがん(声門がん)」に対して、治療後の声の悪化を最小限に抑えるために、レーザーを用いた極めて繊細な経口的切除術(Transoral Laser Microsurgery: TLM)を国内で最も積極的に行っている。

これら手術の適応となるのは主に早期がん患者ではあるが、切除範囲に限界があるものの経口的に切除可能と判断される場合は、一部進行がんに対しても行うことができる。良好な治療成績だけでなく、嚥下・発声といった患者さんの生活の質(Quality of Life: QOL)を良好に維持でき、患者さんの体への負担が少ない(低侵襲)、といった利点があり、現在では「頭頸部がん診療ガイドライン」において標準治療の選択肢の一つとなっている。治療後のQOL悪化を最小限に抑える治療法として、近年これらの治療法は国内で普及しつつあり、その第一人者として当院でこれまで行ってきた実例などを紹介する。

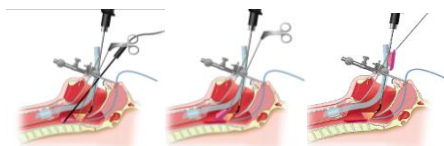


図1 TOVS 模式図

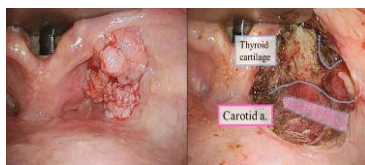


図2 下咽頭がん TOVS 症例



荒木 幸仁(あらき こうじ)

防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座 教授

日耳鼻埼玉県地方部会 常任理事

専門分野 頭頸部がん、咽喉頭疾患

主な資格 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医

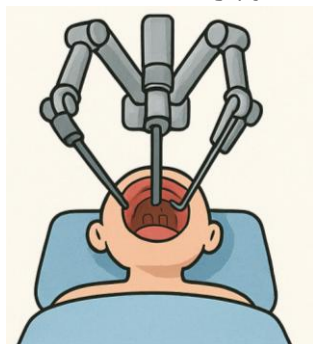
日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・指導医

日本気管食道科学会専門医、がん治療認定医、音声言語認定医

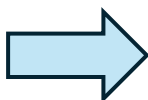
あなたの未来を守る手術

～ダビンチ SP(シングルポート)で中咽頭がんをより安全に確実に治療できる～

マルチポート手術

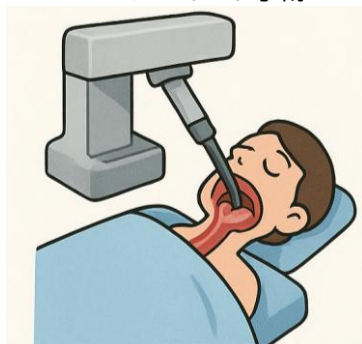


カメラの角度
が可変式に



手術アームが
2本から3本に

シングルポート手術



中咽頭がんに対するシングルポート手術とは？

最新のダビンチ SP は、従来のマルチポートロボットに比べ狭い空間でも十分な機能が果たせるよう、単一の筒から角度が自在に操作できるカメラと3本のアームを経口的に挿入し繊細で精緻な手術操作を実現

ダビンチ SP による中咽頭がん手術の利点

- ✓ 狭い空間での操作に最適化
- ✓ 体表面の皮膚を切開せず既存の開口部を利用
- ✓ 機能温存(声・嚥下など)
- ✓ 低侵襲(体への負担が少ない)
- ✓ 早期退院・社会復帰



あなたの笑顔を未来につなぐ手術法、それがダビンチ SP



中平 光彦(なかひら みつひこ)

埼玉医科大学国際医療センター頭頸部腫瘍科 教授

日耳鼻埼玉県地方部会 理事

専門分野 頭頸部がん診断・治療、ロボット手術

主な資格 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医

日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医・指導医

日本気管食道科学会専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会埼玉県地方部会・埼玉県耳鼻咽喉科医会 について

公式HPや X(旧 Twitter)、YouTube アカウントを通じて、県内の耳鼻咽喉科の医療機関情報を始め、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の情報を皆様に分かりやすくお届けすることを心掛けています。ぜひリンク・QR コードからご覧ください。

★公式 HP: <https://saijibi.com/>



★公式 X: @saitama_jibika



★公式 YouTube: https://www.youtube.com/@saitama_jibika





7.27 世界頭頸部がんの日
World Head & Neck Cancer Day

命と機能を守る
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
